

母と子のにわ

—利用者のみなさまと母子医療センターをつなぐ—



第23号

2009 Winter

当センターの新型インフルエンザ対策

目次:

当センターの 新型インフルエンザ対策	1
母子医療センターの ボランティア活動 紹介	2
仕事紹介 「臨床工学技士」	3
「赤ちゃんにやさしい病 院」を目指しています	4
ことばいろいろ 「アンギオ装置」	4
診療科紹介 「形成外科」	5
センターからの お知らせ	6

1. 新型インフルエンザ流行状況

国立感染症研究所感染症情報センターの全国集計によると、9月以降発症者数が増加の一途であった新型インフルエンザの流行は、11月に入って停滞傾向になったそうです。流行のピークが過ぎつつあるのかも知れません。また、新型インフルエンザが重症化（肺炎、脳症など）する比率は、季節性インフルエンザの場合と比較して、同等か、むしろ低いようです（厚生労働省）。新型インフルエンザの病原性は季節性インフルエンザと同じ程度と認識すべきです。すなわち、新型インフルエンザをいたずらに怖がるのではなく、冷静に対処することが必要です。

2. 当センターにおける感染対策

感染対策の基本はマスク着用と手洗い励行です。医師、看護師など職員は、マスクを有効利用するため外来部門を中心にマスク着用を心がけています。

発熱、咳などの症状が出てインフルエンザが疑われる場合、受診される前に主治医（時間外受診の場合は当直医）にあらかじめ電話連絡のうえ、マスクを着用して来院していただくようお願い致します。

3. 新型インフルエンザを発症した場合

新型インフルエンザと診断した場合、季節性インフルエンザと同様にタミフルやリレンザなどで治療いたします。鼻腔ぬぐい液による迅速検査では新型と季節性の鑑別はできませんが、治療法は同じです。症状が軽い場合には解熱薬などによる対症療法だけで十分ですし、症状が重く入院が必要と判断される場合には、責任を持って対応いたします。

新型インフルエンザの潜伏期間は平均3-4日（長い場合には7日）と言われています。家族や親しい方がインフルエンザと診断された場合は、この期間に発症する可能性がありますので、発熱や咳などの症状にご注意下さい。

4. 新型インフルエンザワクチンについて

当センターを受診中の妊婦さん・患者さんを対象とするワクチン接種を実施中です。予約のことなど詳細については、当センターのホームページ・外来掲示板を御覧下さい。

5. インフルエンザ対策の今後

皆様のご協力のおかげで、これまで当センターはインフルエンザ発生を最小限に抑えることができています。冬の到来とともに、新型インフルエンザだけでなく季節性インフルエンザの流行が待ち構えています。これまで通り、引き続きマスク着用・手洗いなどの感染対策にご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

感染症防止対策小委員会（ICT: Infection Control Team）

井上雅美



母子医療センターのボランティア活動紹介

母子医療センター《母と子のにわ》のモニュメントに次のような言葉が書かれています。

「我々が必要とするものは多いが先に延ばせる。しかし子どもたちは待てない・・・子どもたちにとっては今日しかないのだ」

当センターのボランティアは、そんな子どもたちの今日に、そして子どもたちを取り巻く方々の今日に、少しでも役に立ちたいと思い、自発的に集まった人たちです。当センターでは、現在、約100余名のボランティアが登録されさまざまな活動を行っています。

下記に主なグループと活動内容を紹介します。

エプロンママ：センターでの活動歴は15年。ほぼ毎日、主にアトリウムや病棟で子どもたちと一緒に遊んでいます。面会できないご兄弟も事前に申し込んでいただくと、お預かりすることもできます。アトリウムや病棟の季節の飾り付けも行っています。

スマイルパンプキン：4階西棟のプレイルームで工作を中心に子どもたちと遊んでいます。誕生会や季節のイベントなどを定期的に行っています。

おはなしでんしゃ：本の読み聞かせや紙芝居など希望された病棟を巡回しています。

わたしのへや：病棟から依頼されたさまざまな縫い物や、繕い物などソーイング全般を

しています。また、家族同室のママたちへの手芸教室も始めました。短時間で仕上がる手作り小物（ペアマスクやスタイ、シュシュなど）を一緒に作りませんか。ご希望の方は、病棟詰所へお問い合わせ下さい。

ういずゆう：院内案内のグループです。外来から検査室や麻酔科外来などへご案内します。入退院時や手荷物が多い時など、気軽に声をかけて下さい。手続きやお支払いなど手の離せない時もバギーやコットの見守りをします。

レインボー：4つの大学合同のグループです。病棟やアトリウムでの活動をしています。

園芸クラブ：母と子のにわや正面玄関付近に季節の色とりどりの花を植えています。センターを利用される方たちに少しでも和んでいただきたいとの思いを込めて手入れをしています。

図書クラブ：司書さんのお手伝いの活動をしています。

最近では、各種イベントや親の会の雑務お手伝いなど、グループの垣根を取り除いて、母子医療センターボランティア会として、必要とされる場所へランダムに行き来しながら、ニーズに見合った活動を心がけています。

母子医療センターのボランティアは面接・健康診断・研修を修了した、信頼できる人たちですので、安心して活動をお任せ下さい。

赤いチェックのエプロンにブルーの「ボランティア」のワッペン。センターのボランティアは声をかけていただくのを待っています。

(ボランティアコーディネーター土田輝美)

病院ボランティア募集中

あなたも母子医療センターでボランティアをしてみませんか。興味のある方は、下記までお問い合わせ下さい。

企画調査室

ボランティア
コーディネーター
土田
0725-56-1220
内線2009



クリスマス会で病院長から感謝状を頂きました。

しごとしょうかい りんしょうこうがくぎし 仕事紹介「臨床工学技士」



母子センターでは、たくさんの数と種類の機械を使用しています。治療や診断のために用いられる機械をとくに「医療機器」といいます。最近ではどんどん使用される医療機器が増えてきました。

昔は、お医者さんや看護師さん達が、医療機器を管理していましたが、たくさんの医療機器を使用するようになった現在では、お医者さんや看護師さん達の代わりに、臨床工学技士が医療機器の管理を任されています。

病院の中で、使用している医療機器の調子が悪くなった時には、その機械が故障で修理を必要としているのか、それとも使い方を間違っていたのかを判断します。故障の場合は点検や修理をおこないます。ひどい故障の場合には専門の業者さんに紹介状（修理伝票）を書いて修理をお願いしています。まるで医療機器のお医者さんのようです。

また臨床工学技士は、機械の点検や修理などの管理をおこなうだけでなく、それらの機械の準備や操作をおこなって、お医者さんや看護師さん達と協力して治療に参加しています。

たとえば、心臓を手術する時には、動いている心臓を一時的に止めて手術をおこないますが、その間に止まっている心臓の代わりに、体の隅々に血液を送るために使用される

機械を「人工心肺」といいます。臨床工学技士はその人工心肺の準備や操作をおこなって安心して手術ができるためのお手伝いをしています。

腎臓の働きが悪くなって、おしっこが出なくなったりすると、体に余分な水や、汚いもの（老廃物）が貯まってきます。そのようなときに患者さんの体の中を流れる血液を「透析装置」という機械を使用して、余分な水や汚い物を取り除いて体に返します。その機械の準備、操作や点検なども臨床工学技士の仕事です。

健康な皆さんは、いつも何気なく自然に呼吸をしています。吸い込まれた空気は肺で酸素が体に取り込まれ、逆に炭酸ガスを体の外に吐きだしていますが、病気になり、呼吸する力が弱くなったり、肺そのものが傷ついたりすると、自然に呼吸ができなくなったりして苦しくなります。そのような時に、患者さんの呼吸を助けるために「人工呼吸器」が使用されます。臨床工学技士は人工呼吸器の管理もしています。

つまり臨床工学技士は病院で使用されている、色々な医療機器の操作や管理などをおこなう専門家です。患者の皆さんの命と安全を守るためのお手伝いをする、まさに「縁の下

の力持ち」のような仕事をしています。
(臨床工学技士 澤竹 正浩)



母子医療センターは「赤ちゃんにやさしい病院」を目指しています（2）

母乳育児成功のための10カ条

1. 母乳育児の方針を全ての医療に関わっている人に、常に知らせること
2. 全ての医療従事者に母乳育児をするために必要な知識と技術を教えること
3. 全ての妊婦に母乳育児の良い点とその方法をよく知らせること
4. 母親が分娩後、30分以内に母乳を飲ませられるように援助すること
5. 母親に授乳の指導を十分にし、もし、赤ちゃんから離れることがあっても母乳の分泌を維持する方法を教えること
6. 医学的な必要がないのに母乳以外のもの、水分、糖分、人工乳を与えないこと
7. 母子同室にする。赤ちゃんが一日中24時間、一緒にいられるようにすること
8. 赤ちゃんが欲しがる時に、欲しがるままの授乳を進めること
9. 母乳を飲んでいない赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと
10. 母乳育児のための支援グループ作りを援助し、退院する母親に、このようなグループを紹介すること

当センターでは、ユニセフ・WHO（世界保健機構）が勧告した「母乳育児成功のための10カ条」を遵守し実践しています。母乳で育てたいと願う母親の声に応え、母と子とその絆を育むことが出来るように赤ちゃんを「しっかり抱いて、見つめて、語りかけて」おっぱいを飲ませていくことができるよう取り組んでいます。

産前教育では、「ほほえみ」という冊子をお渡しし、妊娠中、産前、産後の情報提供を行っています。また、とくに母乳育児を成功させるための10カ条の第3条「全ての妊婦に母乳育児の要点とその方法を知らせること」に重点をおいています。全ての妊婦さんが母乳育児に興味を持てるように、母乳育児を成功させるための10カ条を説明したパンフレットを作成し、配布できるように準備をしています。また、助産師による保健指導の中で、妊娠20週、妊娠36週の2回、母乳育児についてお母さんと個別に話し合う機会を持っています。さらに、両親学級では、産後の母乳育児に向け、母乳分泌の機序や母乳の利点、母乳育児の時の赤ちゃんの抱き方などについて具体的な内容を取り入れています。1人でも多く母親に母乳育児が推進できるように取り組んでいます。（産前教育小委員会 飯野 江利子）

ことばいろいろ「アンギオ装置」

アンギオ装置（血管造影装置）はX線を使って血管の走行や心臓の形を画像化する専用装置のことです。体の両側にX線を出す管球とこれを感じ取る検出器が向かいあうように置かれています。それらが対となって体の周りで回転することによりいろんな角度からの画像が得られます。

血管や心臓はそのままでは見えにくいので、造影剤というX線にうつりやすい薬を注入して撮影します。実際には、大腿や肘の血管からカテーテルという細いストローのような管を挿入し、できるかぎり調べたい部分に近いところまでカテーテルを進めていき、その場所から造影剤を注入して撮影を行います。

通常のX線写真とは異なり、毎秒数枚から数十枚という多くの画像を連続的に撮影することにより、血管の狭窄・拡張・閉塞等の形態的異常だけでなく、血液の流れ方・心臓の動き等を動画として観察することもできます。

現在使用している装置は1994年に購入した15年も前のもので、それが来春、最新式の装置に更新されます。あらゆる面での性能・機能の向上により、より鮮明な画像と被ばく線量の低減が期待されます。

（放射線科）

「母と子のすこやか基金」ご案内

高度な母子医療のための調査・研究や啓発活動を推進するために設置されたのが「母と子のすこやか基金」です。この基金をもとに、当センターではこれまでも様々な活動成果をあげ、母子医療の向上が得られてきました。

この「母と子のすこやか基金は」、それらの活動にご賛同いただく皆さまからの寄付金により成り立っています。

【「母と子のすこやか基金」の申込み・お問い合わせは】

センター内に設置されています「母と子のすこやか基金」ご案内のパンフレットをご覧ください。



診療科紹介「形成外科」

形成外科とは

形成外科とは「形を造る外科」です。もう少し具体的に言い換えると、先天異常あるいは後天性疾患によって、からだの表面に現れた変形を形態的ならびに機能的に修復・再建することを目的とした比較的新しい外科の一分野です。

いろいろな体表の構造を再建する外科は、実は古くよりありましたが、耳や鼻の再建は耳鼻科で、まぶたの再建は眼科で、皮膚の癒痕（傷あと）は皮膚科で、という具合に外科系各科の再建に興味を持つ医師たちの個々の努力によって行なわれてきたという感があり、系統的なものではありませんでした。

しかし、形を造るためには、皮膚やその他もろもろの組織の移動・移植に関する広い知識と経験が必要であり、一つ一つの変形に対して与えられた材料によって作り上げられる形態を想像し、予見できる能力も大切です。しかも、より正常に近く、目立たないように、あるいはより美しくなおすことを皆が望むのは当然のことです。これらに習熟した専門医師の存在を求める声が社会的に大きくなりその結果誕生したのが形成外科です。

主な対象疾患

形成外科の治療の対象は、体表やそれに近い組織・器官の変形・欠損あるいは醜形です。以下のようなものが挙げられます。

1. 先天奇形

「小耳症」「立ち耳」「折れ耳」など耳介の形態異常や鼻の変形・欠損、「先天性眼瞼下垂」や「睫毛内反」といった眼瞼周囲の異常、顔面の骨の形態異常、「多指（趾）、合指（趾）症」などの手指や足の異常やいわゆる「でべそ」など。

2. 外傷（けが）

交通外傷を始めとする、いわゆるけがは近年増加の一途をたどっていますが、これら外傷による皮膚・軟部組織損傷を単に治すのではなくできるだけ綺麗に治すためには、形成外科的な考え方にもとづく治療が必要不可欠です。また鼻や頬、顎といった顔面骨の骨折も、形成外科の治療の対象です。

3. 熱傷（やけど）

「やけど」は創傷治癒に対して専門知識を有している形成外科があつかう領域です。

4. 癒痕（傷あと）・癒痕性拘縮（ひきつれ）

外傷、熱傷、手術後に生じる癒痕あるいは癒痕拘縮、ケロイドの治療においては、機能面だけでなく形態的、整容的改善に対する要望が強く、形成外科の得意とするところです。

5. あざ、皮膚・皮下腫瘍

現在3種類のレーザーを導入し、さまざまな「あざ」の治療にあたっています。患者さんの苦痛を考慮し、必要があれば全身麻酔下でのレーザー治療が行なえる体制も整えています。また「ほくろ」に代表される母斑、母斑症と呼ばれる皮膚良性腫瘍や皮膚癌などの皮膚悪性腫瘍、および種々の皮下腫瘍の手術にも形成外科的なテクニックを駆使し、腫瘍をいかに綺麗に取り除くかに心を砕いています。

6. 褥創（床ずれ）、潰瘍

褥創、下腿潰瘍などに対し外科的療法も含め種々な治療を行ない、創を治癒に導きます。

7. その他の変形

顔面神経麻痺や進行性片側顔面萎縮、リンパ浮腫なども形成外科的治療の対象となります。

8. 美容

美容外科はあくまで形成外科から派生した一つの分野であり、正しい美容外科手術を行うためには形成外科の十分なトレーニングを積んでいることが必要不可欠です。病院の性質上、美容のみを目的とした治療を行なうことはありませんが、形成外科で治療を行なう上で、よりよく、より綺麗に治すために美容外科的な考え方やテクニックを流用することは少なくありません。

母子センターの形成外科

現在、1名の日本形成外科学会認定医と1名のレジデントの2人体制で診療にあたっています。

週間スケジュールは以下の通りです。

月曜日 午前：外来・火曜日 終日：手術・水曜日 午前：外来

木曜日 午前：手術（奇数週のみ）・金曜日 終日：手術

※外来は基本的に予約制で、初診患者さん、再診患者さんを診察します。

私たちは形成外科の手術にはart（芸術）な一面があると考えています。私たちが持っている知識やテクニックを総動員し、患者さんが悩みをかかえている部位を美しくなおすためにあらゆる努力をおしませません。患者さんにとって最良の結果をもたらす治療法は何なのか、常にいろいろな方法の可能性を考え、ベストと思われる治療法を選択するようこころがけています。

（形成外科主任部長 吉岡 直人）



地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立
母子保健総合医療センター



〒594-1101
大阪府和泉市室堂町840
電話 0725-56-1220(代)
Fax 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。
<http://www.mch.pref.osaka.jp>



センターからのお知らせ

出産育児一時金等の医療機関等への 直接支払制度のご案内

平成21年10月1日から平成23年3月31日までに出産される方を対象に出産育児一時金等の医療機関等への直接支払制度がスタートしました。

※出産育児一時金等には、家族出産育児一時金及び共済の出産費用及び家族出産費を含みます。

この制度は、健康保険組合に当センターが妊婦の方に代わって出産育児一時金等を請求することにより、妊婦の方は、出産費用を現金等でお支払いいただく必要がなくなります。

※お子さんの入院費用は、対象外となります。また、手続きについての手数料はいただきません。

出産育児一時金等は、原則42万円ですが、出産費用が42万円を超えた場合は、超えた額を直接、請求させていただきます。また、42万円未満の場合は、その差額を健康保険組合に請求することができます。

※在胎週数22週未満で出産された方の出産育児一時金等の上限は39万円です。

帝王切開などの保険診療を行った場合、3割の自己負担金をいただきますが、出産育児一時金等をこの3割負担のお支払いにも充てさせていただきます。

当センターにおきましては、外来初診時に妊婦さんに、ご案内の文書をお配りしております。利用するしないにかかわらず合意書の提出をお願いしております。積極的にご利用いただきますようご案内いたします。
(事務局医事グループ)

母性外来改修工事並びに外来検査室拡張工事の実施について

この度、母性外来に感染症室を設置することに伴い、母性外来の半分を大幅に改修いたします。

第一に感染症のある患者さんを診察するため、専用のトイレと洗面を設けた個室の診察室を設置します。これにより、院内感染の防止に努めてまいりたいと思います。

この工事に伴い、母性内科診察室や、新生児診察室の場所が移動しますので、ご注意ください。

また、外来検査室につきましては、現在検尿室が一つしかありません。このため、同じ検尿室を男女でご利用していただいております。近年の患者さんの年齢層が思春期に広がることから、このたび、検尿室の男女分離を実施いたします。

工事中は、音や振動、粉じんの発生などが予想されますが、工事の実施には十分注意をいたしますので、よろしくご協力致します。
(事務局施設保全グループ)

大阪府立母子保健総合医療センター 基本理念

1. 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
2. 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
3. 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
4. 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。